

(1) 北九州市における今後の少子社会対策のあり方について

子どもを産みにくい、育てにくい環境を作っている原因は、突き詰めていけば、子どものことをよく知っていて、正面から向き合える大人が少なすぎることにあります。

そして、多くの大人が、効率、規格、利益を重視する企業を中心とした経済社会に住み、そこが社会の主流であると考えている限り、子どもが生まれ、育つのに適した時間・空間は失われる一方です。

子どもの心身の異常、親の疲弊、ひきこもり、虐待、性犯罪、薬物依存など、子ども・子育てにまつわる様々な問題は、上記を原因として発生した結果だともいえます。

これらの結果に個別に対応することは重要な課題です。しかし、とてつもなく過酷で重たい仕事となります。これらの結果が生じる前の予防措置こそ、今の社会に必要なものだと考えます。

北九州方式の子育て支援は、子どもが育つ場として小学校区単位の地域を設定し（第三層）、区単位で総合的な行政支援を行い（第二層）、市全体の第一層では、専門的、技術的支援を第二、第三層に供給するとしています。

私たちは、上記の「結果」に対する対応を子ども総合センターが担い、**予防措置を（仮称）子育て支援プラザ、子どもの館が担う**と考えています。

子育て支援プラザは、主に乳幼児を、子どもの館は主に小学生から中・高校生を対象に、子ども、親、支援者、地域に対して実施する予防措置をモデル事業として実践的に研究する場と捕らえています。そして、得られたノウハウ、育った人材を第二層、第三層に広めていく役割を担っていると考えます。

■子育て支援プラザの機能

- ・親、養育者の育ちを支えるモデル実践とノウハウの形成、プログラム化
- ・乳幼児の育ちを支えるモデル実践とノウハウの形成、プログラム化
- ・子ども・子育てに関する情報の集積と発信
- ・子育て支援者の実践的養成と第三層への供給
- ・子ども・子育てに関する市民活動の活性化支援
- ・区と協働して第二層レベルの子育て支援充実事業
- ・市民センターと協働して第三層レベルの子育て支援施策充実事業
- ・企業内教育へのプログラム提供
- ・子ども相談センターはじめ市内の子ども・子育て関係施設との緊密な連携
- ・芸術、学習、観光など市内施設との多様な連携

■子どもの館の機能

<子どもたちが作る、子どもたちのための、子どもたちの場>

- ・幼児～高校生の自己表現、社会参画のモデル実践とノウハウの形成、プログラム化
- ・幼児～高校生の居場所づくりのモデル実践とノウハウの形成、プログラム化
- ・子どもを中心とした地域活性化のモデル実践とノウハウの形成、プログラム化
- ・学童期、思春期の子どもに対する大人の養成と第三層への供給
- ・中・高校生の自主活動の活性化支援
- ・児童館、学童保育クラブとの緊密な連携
- ・子育て支援プラザの分館機能

(2) 応募動機

今、日本の子育ては苦しい状況にあります。

国、地方行政、市民、企業に到るまで、問題の重大さを認識し、数多くの支援策が動き始めています。

しかし、子どもを取り巻く環境の悪化の速度は、ますます速まっているようにさえみえます。

北九州市は、「日本一子育てしやすいまち北九州」のコンセプトのもと、市民も参画して「次世代育成行動計画」が策定されました。

本事業は、この行動計画のフラッグシップ的事業と認識しています。

私たち、「北九州子育て・親育ちエンパワメントフォーラム」は、当事者としての市民活動に端を発し、子育て支援の現場に深く関わり、多様な支援者、当事者、専門家、研究者など様々な子ども・子育てに関わる人たちとネットワークを作ってきました。

そして、「子どもが育つ」「親が育つ」「社会で子どもを育てる」ということは何かを常に問い直しながら、様々な人たちの話を聞き、現場で経験を積み、子ども・子育てに関わる人とのつながりを深め、情報・ソフトを集積してきました。

これまでの経験、人的ネットワーク、情報、ソフトを活かし、支援者と当事者の両方の視点を持って、このフラッグシップ的事業運営にあたりたいと強く思っています。

北九州市のこれまでの施策の中で、ハードは大変充実してきました。

もともとあったハード資源に加えて、ここ10年ほどの間にさらに充実度を高め、国内有数のレベルに達していると感じます。

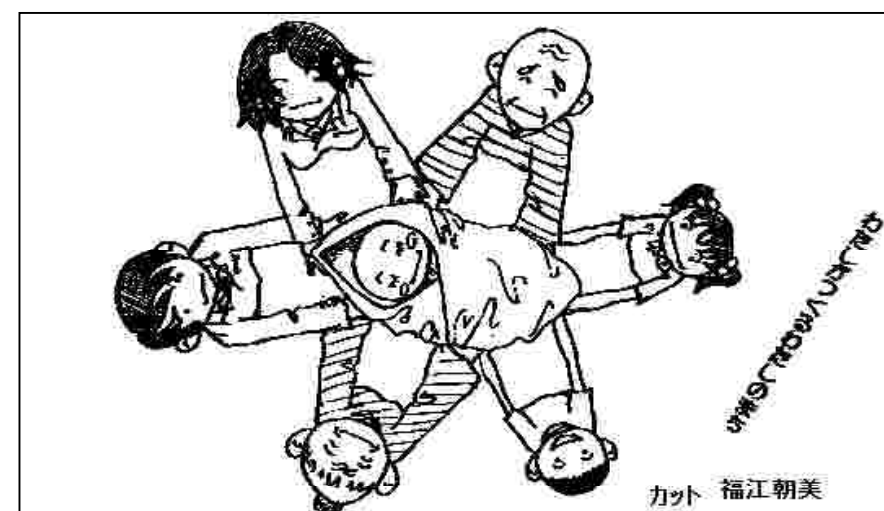
このハードを生かすソフトの充実には、行政だけではなく、私たち市民の力を惜しみなく使うことが必要だという思いを強くしています。

子どもや家族支援という問題は、保育のみ、保健福祉のみ、生涯学習のみでは解決できない大きな社会全体の問題です。

市民活動には、行政や専門家が構造上かかえる困難さ—行政機構や専門性に由来するタテ割の壁—を柔軟に越える力があるのではないかと思います。

行政や専門家という貴重な資源を、私たち市民が柔軟につないでみようと考えました。

幸いにして、理念を同じくする仲間で作ったNPOの考え方に共鳴し、生活に密着した企業が共に事業を行なっていくという決断を行ないました。その結果、理念と行動力、子ども・子育てに関するノウハウを持ったNPOと、市内・近郊の大多数の家庭へのネットワークを持つ企業が、子育てという共通の目的の実現に向けて、対等に強力に結びつくことになりました。



わたしたちは、
「子どものきらきとした笑顔が増え、子ども自身の生きていく力が輝きはじめる」
 ことを目指し、今回の指定管理者に応募致します。